

令和7年度 第2回 与進小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年7月25日（金） 13時25分から15時25分まで
- 2 開催場所 長上協働センター ホール
- 3 出席委員 石津 恵也、鈴木 清久、鷹森 光代、星 貴之、鈴木 育男、中山 利彦
仲川 尚志、山本 希美
- 4 欠席委員 幸田 記代子、足土 智彦
- 5 オブザーバー 石井 智也（長上協働センター所長）、村田 弘貴（長上協働センター主事）
- 6 学校支援コーディネーター 竹村 祥子
- 7 学 校 太田 賀子（校長）、影山 重広（教頭）、内田 智美（主幹教諭・CS担当）
池田 典央（生徒指導主任）、堀内 千佳代（CSディレクター）
教職員42名
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 堀内 千佳代
- 10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、前回会議で承認された鷹森委員が務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

（1）1学期の学校評価

① 1学期学校評価の報告

- ② 自己肯定感を上げるために、今後、学校や保護者、地域で取り組むことができることについて

※グループ別協議内容

- ・学校の現状の報告（がんばっていること、課題）
- ・それぞれの立場でできること（学校、保護者、地域）
- ・情報共有（発表）

12 会議記録

司会の影山教頭から、委員総数10人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）1学期の学校評価

① 1学期学校評価の報告

議長の指示により、内田主幹から別紙資料『令和7年度与進小学校「学校評価前期アンケート」結果一覧』の説明があり、委員より以下の発言があった。

- ・子供達と先生方の評価に差があるところが気になる。大人が子供に求める理想が高い現れだと思うが、子供たちに対して大人がどういう行動をすべきか運営協議会の中でも検討していきたい。（星委員）

⇒どこの学校でも児童と教員の差は発生している。教員のもっとできるのではない

か、もっとやりたいという現れだと思う。(校長)

- ・ふわふわ言葉という認識が地域には浸透していないので、そういう言葉の存在と使い方を啓蒙してほしい。(中山委員)

⇒前回のいじめの定義についても同様な意見が出たが、まずは運営協議会メンバーで情報を共有し、自治会役員の方にも説明したいので資料の作成をお願いしたい。(鷹森委員)

⇒「生徒指導だより」で発信する。(池田生徒指導主任)

⇒与進小版ふわふわ言葉が職員室前に掲示してある。再度、学校・家庭・地域で情報を共有していけば、子供たちも更に身についていくと思う。(校長)

② 自己肯定感を上げるために、今後、学校や保護者、地域で取り組むことができることについて

※グループ別協議内容

- ・学校の現状の報告（がんばっていること、課題）
- ・それぞれの立場でできること（学校、保護者、地域）
- ・情報共有（発表）

内田主幹より協議についての説明が行われた後、6つのグループに分かれ話し合いが行われた。協議終了後に各グループより協議内容の発表がされた。

【Aグループ】1年生

委員：石津・山本

教員：掛井・大森・竹下・田中・内山・堀尾・大平

＜現状＞

- ・1年生は産まれた時からコロナ禍で、経験の差が自己肯定感につながっているのではないか。

＜学校＞

- ・経験不足と経験の差を埋めるために、スモールステップを作りながら成功体験を積み上げていく。
- ・係決めで一人一役を持たせ、自分が役に立っているという経験を積み上げていく。
- ・教員が認めて褒めていく。

＜保護者＞

- ・まだ生活習慣が身についていないので身につけさせていただきたい。
- ・子供と関わる時間を増やしていただきたい。

＜地域＞

- ・さつまいも、朝顔等の学習支援に参加して関わっていただきたい。
- ・旗振りボランティア等で見守り、声掛けなどをしていただきたい。

【Bグループ】2年生

委員：鈴木育男・中山

教員：大石・相曽・藤江・鈴木・鈴木安奈・川合・高林・沖

＜現状＞

- ・アンケート結果を見ると楽しむ・挑戦するなどの項目は出来ているが、自分で考えたり意見を言ったりという部分において苦手意識がある。

＜学校＞

- ・褒めたり認めたりする機会を増やし、いろいろな経験をさせてあげることが大切。

＜保護者＞

- ・結果だけではなく、過程を褒めてあげる。
- ・家庭内でも手伝い等で積極的に参加させ褒めていく。
- ・保護者自身も認め、褒められることが大事。
- ・活動を発信することで家庭同士の連携、良いつながりを作る。

＜地域＞

- ・地域の方と関わるきっかけを増やし、あいさつ等お互い名前呼び合うような関係作りをしていく。

【Cグループ】3年生

委員：鷹森

教員：竹田・小野・徳井・車・大城・山下真琴・立石

＜現状＞

- ・意欲的に取り組み素直な子が多い。
- ・課題として廊下歩行がうまくできていない。
- ・発達段階として言われたら直すことができる。
- ・自分の思いを伝えることが苦手。
- ・コロナ禍で生活体験が乏しい。

＜学校＞

- ・保護者・地域と連携を持ち、いろいろな体験をさせてあげたい。
- ・長い目で見て、少し待ち、信じてあげる指導を続けていく。

＜保護者＞

- ・配布される各種イベントのチラシ等を参考に、いろいろな体験をさせてほしい。
- ・お手伝いの宿題が出たら家庭内で一緒にやってほしい。

＜地域＞

- ・学習支援の書初めなどで褒めてあげてほしい。その後地域の方からも良いところを伝えてもらえると子供たちも成長できる。

【Dグループ】4年生

委員：星・石井オブザーバー

教員：小杉・山下俊哉・次廣・梅田・岡部・山田・望月

＜現状＞

- ・初めての清掃リーダーとなりがんばっている。
- ・授業での話す・聞く・姿勢の姿が良くなってきている。

- ・課題として廊下歩行、あいさつ等の規範意識が低い子がいる。

＜学校＞

- ・子供たちの名前を顔を見てしっかり言い、所属感を与える。
- ・できた経験に対してだけでなく過程の部分もしっかり褒める。

＜保護者＞

- ・家庭内でも会話を取ってほしい。そしてその中で褒めるということを意識してもらいたい。
- ・他の子と比べない。以前の自分と比べることで成長を感じさせてほしい。

＜地域＞

- ・元気にあいさつをしたり、規範意識を守って行動すれば、子供たちもそういった行動を真似ができる。良いロールモデルになるような行動をお願いしたい。

【Eグループ】 5年生

委員：仲川・竹村コーディネーター

教員：小嶋・大橋・牧田・鈴木規悦・増井・村松・野末

＜現状＞

- ・高学年になり、行事が増え、勉強も難しくなり日々いろいろな事をがんばっているが、アンケート結果の自己肯定感は低い為、それを感じ取れていない所が課題である。

＜学校＞

- ・どの子もまんべんなく褒める。
- ・当たり前になっている事に対しても褒める。
- ・褒める場を増やすためにそう言った場を設定する。
- ・友達から褒めてもらう。
- ・自分が自分自身の事を褒め、成長を実感できるようにしていく。

＜保護者＞

- ・思春期に入り、コミュニケーション不足になりがちである。家庭では学校では出来ない関わりが出来るので、スキンシップを取って上手にコミュニケーションを取ってもらいたい。
- ・子供との関わり方を学ぶ機会が少なくなっているなので、家庭教育講座を開催したり情報を発信する。
- ・保護者の方に対してもがんばっている姿を認めてあげる。

＜地域＞

- ・時代的に関係が希薄になっている。地域の行事やイベントに参加して、第三者から褒めてもらうことも大事である。

【Fグループ】 6年生

委員：鈴木清久

教員：北島・山下彩・袴田・池田・外山・金原・森島

＜現状＞

- ・委員会の仕事等、6年生としての役割がしっかりできている。

- ・課題として自分には良いところがあると思っている児童が少ない。

＜学校＞

- ・多様な形で褒める。結果だけでは無く過程を褒めたり、担任では無い別の人から褒めもらう。当たり前に行っている事を褒めて価値付けしてあげる。特別活動等においても褒める。
- ・まわりと比べず過去の自分と振り返り、どれだけ成長できたかをその場所で意識的に取っていくのが大事。

＜保護者＞

- ・思春期に入り会話をすることはなかなか難しいと思うが、家庭内で会話をさせていただき共感していくことを大切にしてもらいたい。
- ・6年生はどうしても学習面、運動面等で差が顕著になってくるので、だからこそ会話を通してつながってほしい。

＜地域＞

- ・あいさつや旗振り等での声かけをお願いしたい。
- ・地域のお祭りやイベントを通して積極的に声をかけていただきたい。
- ・クラブ、ミシン等の学習支援に参加していただき、教員では無い大人から声をかけてもらうのは子供にとってもプラスになる。

【総評】

＜学校＞

学校として出来る事については「褒める」ということ。どのように褒めるか、どう機会を増やすか、そういった部分で子供たちの体験、学習活動を吟味してやっていくという点で話し合えたと思う。また各教員が名前をしっかり覚え、それぞれの立場で声掛けをすることで所属感を与えることが大切だと思った。(内田主幹)

＜保護者・地域＞

今日の話し合いで出された内容はここで完結では無く、地域の方にも「CSだより」として紹介をしていきたいと思った。また家庭にこれをどうやっておろして行くかは、PTAの方とも相談していきたいと思う。

地域の方に口コミで子供たちの良い事を話題にすると、関心を持ってくださる方もいる。自治会等で話題になれば、子供たちに対する関心も温かい目で見守る方の関心になり、地域にも反映して行くと思う。まずは一歩ずつ始めていきたい。(鷹森委員)

その他報告事項等

- ・村田オブザーバーより、地元に発信したいことがあれば「長上協働センターだより」に掲載するので、活用していただきたいとの報告がされた。
- ・教頭から、次回会議は令和7年12月11日(木)午後1時30分から開催し、会議室で行う旨の報告がされた。